

北部九州に適する水稲一麦・露地野菜の有機二毛作技術

(独)農研機構 九州沖縄農業研究センター、
佐賀県農業試験研究センター



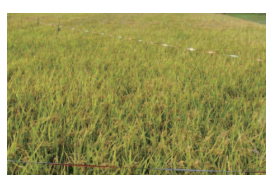
温暖な九州では、二毛作による高度土地利用型水田営農が広く普及していますが、有機栽培での二毛作は冬作における技術的課題のために、実施面積が限られています。水稲を基盤作目、露地野菜を戦略作目、麦類を営農安定化作目と位置付けて、栽培技術の改善や経営分析を進めています。

1 水稲

●**晩植・後期重点追肥によるウンカの被害回避**: 7月の**稲体窒素含有率**が低いと、トビイロウンカの初期増殖が抑えられるため、発生量が減少して、被害が回避できます。



早期重点施肥
N基肥:5ー穂肥:0
(kg/10a)
坪枯面積 50%
ウンカ 297頭/株
収量 401 kg/10a



後期重点施肥
N基肥:0ー穂肥:5
(kg/10a)
坪枯面積 0%
ウンカ 53頭/株
収量 441kg/10a

3 麦類

●**晩播・播種前耕起と条間施肥による有機小麦の雑草防除**: 晩播と播種前耕起2～3回を組み合わせると雑草量を減らします。また、条間に施用した有機質肥料(**なたね油かす**＋発酵鶏ふん)が雑草を抑制します。

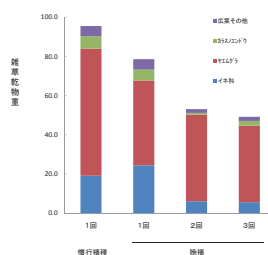
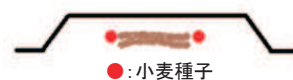


写真 抑草効果



●:小麦種子

図 麦の晩播と播種前耕起の組み合わせによる雑草量の低減 図 麦畦における有機質肥料の施用位置(種子層・条間が適する)

2 露地野菜(タマネギ)

●**陽熱消毒による地床育苗の雑草防除**: 施肥・畦立て後に、**透明ポリエチレンフィルム**で30～50日間被覆することで雑草が防除できます。



写真 陽熱消毒

苗立枯病対策としても活用できます。

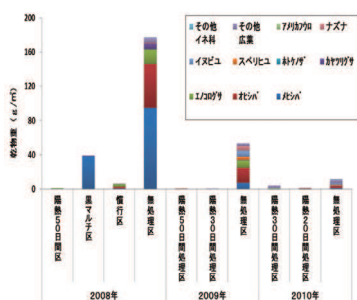


図 被覆期間の違いと雑草防除効果

4 経営分析

●**有機水稲の経営試算**: 有機水稲の10a当たり生産費は慣行の125%で、**純収益は約7倍**となりました。

表 実証圃での有機水稲の経営試算(10a当たり)

	有機栽培水稲	慣行栽培水稲
単収(kg)	411	477
販売単価(円)	500	214
労働時間(hr)	31.4	21.1
粗収益(千円)	206	102
費用合計(千円)	111	96
流動財費	29	42
固定財費	40	25
労働費	42	29
副産物価額(千円)	0	7
生産費(副産物価額差引)	111	89
純収益(千円)	95	13

有機米の販売単価は、大規模経営の方が小規模経営よりも概して高くなっています。